

2023年度 大学生・大学院生向け国際協力理解講座（案）

プログラムNo.1 国際協力実務講座 プログラム概要

別紙①-1

※諸般の事情により、講師やプログラム内容・時間・順序等が変更になることがあります。

1. 基本情報

1) プログラム名:	大学生・大学院生向け国際協力実務講座
2) 担当者名:	荒井 英恵
3) 期間(日数):	2023年8月21日(月)～8月25日(金) 5日間
4) 定員:	30名程度
5) 言語:	日本語
6) 主な対象学生:	国際協力について関心があり、将来、開発途上国の援助に従事したいと希望する大学生・大学院生 専門分野は特に問わない。

2. コンテンツ

本プログラムの目的	国際協力実務経験者からの講義、国際協力や社会課題解決に深く関連したワークショップ等を通じて、国際協力を深く理解し、国際社会の課題に主体的に向き合う意識・姿勢を獲得する。その結果として将来的に、国際協力の担い手やグローバル人材として、持続可能な社会の構築に貢献することが期待される。
-----------	--

3. 日程表

1日目: 2023年8月21日(月)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:00-11:00	主催者挨拶 オリエンテーション	JICA筑波 ジエールエム・インスティ チュート(GLMi)	●プログラムの目的・流れを理解する ●参加者の緊張を和らげる ●参加者が互いの背景や関心を把握する
	11:00-12:00	世界の課題とSDGs (途中 休憩10分)	JICA筑波	●国際社会で取り組むべき課題は幅広く複雑に関連し 合うことを理解する ●SDGsについて理解する ●現在における持続可能な社会の構築やSDGs達成への 寄与の重要性を理解する
	12:00-13:00	日本のODAとJICA事業の概要	JICA筑波	●日本のODAの目的や仕組みを理解する ●JICAの事業・プロジェクトの流れを理解する
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-14:40	国際協力の仕事	JICA開発協力人材室他	国際協力でのキャリア形成を知る
	14:40-16:00	JICA職員の仕事(途中休憩10分)	JICA本部・在外事務所等	JICAの計画・立案や調整を担う職員がどのような仕事 をしているのかを知る

2日目: 2023年8月22日(火)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:00-10:30	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	前日までに獲得した知識や経験を構造化する
	10:30-11:20	国際協力の多様なアクターと JICAとの連携	JICA筑波	●NGO・個人等の市民社会や民間企業も国際協力に取り 組む重要なアクターであることを理解する ●JICAがあらゆるアクターとの連携を構築し、発展さ せていることとその有効性を理解する
	11:20-11:30	休憩		
	11:30-13:00	JICAのプロジェクトと開発コンサルタント の仕事の具体的事例	調整中	特定のJICAプロジェクトが何を指し、どのようなア プローチで課題を解決し、日々どのような仕事をして いるのかを知る
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-14:30	草の根技術協力事業の概要	JICA筑波	JICA草の根技術協力事業の目的・特徴等を知る
	14:30-16:00	NGOのプロジェクトの具体的事例 (草の根技術協力事業)	調整中	特定のNGOプロジェクトが何を指し、どのようなア プローチで課題を解決し、日々どのような仕事をして いるのかを知る

3日目: 2023年8月23日(水)

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
オンライン	10:00-10:30	前日の振り返り・シェアリング	GLMi	前日までに獲得した知識や経験を構造化する
	10:30-11:30	地方自治体のプロジェクトの具体的事例 (草の根技術協力事業)	調整中	地方自治体が何を指し、どのような技術等を活用 し、どのようなアプローチで課題を解決しているのか を知る
	11:30-11:40	休憩		
	11:40-12:00	JICA民間連携事業の概要	JICA筑波	JICA民間連携事業の概要を知る
	12:00-13:00	JICA民間連携事業の具体的事例	調整中	特定の民間連携事業が何を指し、どのように製品・ サービスを活用し、日々どのような仕事をしているの かを知る
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-14:30	JICAボランティア事業の概要	JICA筑波	JICAボランティア事業の目的・応募方法等を知る
	14:30-16:00	JICAボランティア事業の具体的事例 (途中 休憩10分)	元JOCV隊員	JICA海外協力隊の活動や帰国後の進路等を知る

4日目：2023年8月24日（木）

対面開催（一部参加者はオンライン参加）

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	10:00-13:00	PCM（プロジェクト・サイクル・マネジメント）「計画・立案」体験研修① （途中 休憩10分程度）	開発コンサルタント・GLMi等（調整中）	●PCMに対する理解を確保する ●PDM全体の読み方とPOの重要性を理解する ●問題分析の手順・留意点を理解する ●目的分析の手順・留意点を理解する ※PCM手法の要点を体験的に学びます（以下同）
	13:00-14:00	昼休憩		
	14:00-16:00	PCM「計画・立案」体験研修② （途中 休憩10分程度）	同日午前参照	●プロジェクト選択の手順・留意点を理解する ●PDM要約・投入の手順・留意点を理解する
	16:00-17:00	プロジェクト案の共有・発表 （作成したプロジェクトの要約と投入）	同日午前参照	●国際協力プロジェクト立案のイメージを獲得する

5日目：2023年8月25日（金）

対面開催（一部参加者はオンライン参加）

場所	時間	テーマ	講師等	ねらい
JICA筑波	10:00-10:45	JICA筑波施設見学	JICA筑波	●研修員受入事業とJICA筑波の業務を理解する ●本邦研修の活動事例を知る
	10:45-11:00	休憩		
	11:00-12:30	キャリア相談会	JICA筑波職員等（他に開発コンサル・NGO・国際機関等：調整中）	●国際協力分野の仕事の種類や必要な能力・経験・スキル、キャリアパスの例等を知る ●キャリアについて相談する機会を得る
	12:30-13:30	昼休憩		
	13:30-15:30	開発現場シミュレーション	柴田 英知 氏（開発コンサルタント）	開発現場での動きや発生しうる（ステークホルダーの利害関係や社会配慮などの）業務・活動上の課題のイメージを習得する。
	15:30-15:40	休憩		
	15:40-16:40	最終の振り返り・シェアリング(キャリアや将来像)	GLMi	率直な感想に加えて、以下を例に将来に向けた意識について他の参加者と共有する。 ●どのような形で国際協力あるいは社会課題解決に関わりたいか ●（自身が関わりたい形の）国際協力や社会課題解決では、どのような知識・能力が必要とされるのか ●（自身が携わりたい）アクターで活躍するためには何を準備すればよいのか
	16:40-17:00	閉会の言葉 事務連絡・アンケート回答	JICA筑波 GLMi	

3. 留意事項

- ・国際協力に関する基礎的な知識を得ると共に、国際協力の実務について学べる内容となっています。
- ・ディスカッション、ワークショップなど参加型のセッションでは、積極的に参加する姿勢を求めます。
- ・原則、全日程の出席が必要となります。（オンラインでの参加の際は、ネットアクセス可能な範囲で。）
- ・感染防止対策へのご協力をお願いします。発熱、咳・咽頭痛・息苦しさなどの風邪症状がある場合、体調がすぐれない方、味覚、嗅覚異常、疲労感や倦怠感を強く感じる方は参加をご遠慮ください。

4. 学生さんへ一言

将来、国際協力に関わりたい、グローバルな環境で仕事がしたい、社会に貢献できるキャリアを重視したいなど、積極的な学生の参加を歓迎します。
授業で学ぶ国際協力以外にも現場レベルでの国際協力の取り組みについて学びたいと考える人にお勧めです。

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名：	小規模農家の生計向上のための野菜生産技術
2) 担当者名：	野村 岬（研修コース委託先業務総括：苗代氏）
3) 期間（日数）：	2023年7月24日（月）～2023年7月28日（金）
4) 定員：	最大受入人数4人
5) 言語：	英語（実施内容を英語実施のため理解できること）※目安（TOEIC600点、TOEFL510点「CBT180点/iBT64点」、IELTS5.0程度）
6) 主な対象学生：	野菜栽培分野に興味・関心のある生物学系、農学系、開発学（但し、農業に係るフィールドを基礎）関係の3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国：	ラオス、フィリピン、東ティモール、カンボジア、ネパール、バブアニューギニア、インド、スリランカ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	講義及び実習を通じて、主要な野菜の栽培技術等の基本を理解する。
-----------	---------------------------------

日程表						
No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要（狙い）
1	2022/7/24	月	09:15-09:25	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:00	トマト採種実習/摘果、採種、発酵準備	実習	トマトの採種技術を実習する。種子の抽出方法、発酵の過程を学ぶ。
			13:30-16:00	病原菌の検鏡	実習	病害虫専門講師の指導の下、顕微鏡を用いて病害同定ための検体の作成方法、観察手法、同定のポイントについて学ぶ。
2	2022/7/25	火	09:30-12:00	練床技術（作成方法と育苗）	実習	日本でかつて利用された育苗技術の実習。特別な資材を用いない途上国で応用可能な有用技術を学ぶ。
			13:30-16:00	直売所の展開計画から運営の実際	見学	農協の地物野菜直売所を見学する。差別化された販売戦略と経営、出荷農家との販売契約、陳列・集客手法を学ぶ。
3	2022/7/26	水	09:30-12:00	混作による病虫害防除（観察）	実習	違う作物で外周を取り囲み天敵を誘引して害虫被害を軽減するなど自然や生物生態を利用した病虫害防除法を学び、実証例を観察する。
			13:30-16:00	トマト種子調整	実習	採種後処理したトマト種子の選別・調整を実習する。
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り（受講者から所感、質疑含め）。
4	2022/7/27	木	09:30-12:00	直売実習 1/3 説明・準備（3グループ、販売品目確認）。	実習	JA直売所見学で学んだ農家への販売イニシアティブの提供や消費者への安全で新鮮な地元野菜の販売方法について話し合う。
			13:30-16:00	直売実習 2/3 準備（価格調査、販売促進方法検討）	実習	JAの直売所の経営や土浦市場の価格調査を基に直販演習に向けた価格設定や商品陳列、ポップのデザイン・設置方法などを話し合う。
5	2022/7/28	金	09:30-12:00	仮）JICA協カプログラム：ちびっ子博士（11:00-12:00）/09:30-11:00 準備	実習	JICA筑波の公開イベント「ちびっ子博士」で来場した子供たちへのスイカの食味や糖度を調べる「スイカ博士になろう」の準備と補助をする。
			13:30-16:00	個別実験管理 08	実習	研修員が自国の職場で直面している問題を題材に実施している栽培実験の概要を理解し、実験データ収集や栽培管理を体験する。
			16:00-16:30	報告発表		国際協理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・特に朝の開始は時間厳守とします。 ・日程については、今後の研修日程の都合・天候対応などで変更の可能性があります。 ・圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴（作業着及び長靴等）を準備してください。また、講義の日でも作業が出来る服装をお願いします。 ・日没まで作業をしていただくこともあります。
--

4. 学生さんへ一言

一日の実習・講義終了後には、研修員と一緒に圃場をまわってください。研修員が取り組んでいる実習について説明してくれますので、意見交換など交流を図っていただければと思います。

5. その他

講座最終日（予定）には、各受講生には、プログラム中の学びについて研修員等に対し、プレゼンテーション（英語）をしていただきます。

1. 基本情報

*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	市場志向型農業振興(普及員)
2) 担当者名 :	根本 拓哉 (研修コース委託先業務総括 : 中田氏)
3) 期間 (日数) :	7月24日 (月) ~ 25日 (火)、7月31日 (月) ~ 8月1日 (火) の4日間、および8月29日 (火)、9月14日 (木) または9月26日 (火) の3日のうち、いずれか1日間 (予定)
4) 定員 :	受入人数 3 ~ 4人
5) 言語 :	英語(実施内容を英語で理解できること) ※目安(TOEIC650点程度)
6) 主な対象学生 :	農学系または、開発学関係学部 (但し、生物資源生産等に係るフィールドを基礎) 在籍で、園芸作物栽培分野に興味・関心のある学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	バングラデシュ、ボツワナ、ガーナ、レソト、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ウガンダ、ザンビア、ジンバブエ

2. コンテンツ

本プログラムの目的	園芸作物栽培技術に係わる実験実習を研修員と共に体験し、研修員との交流を通じて研修員の出身国に対する理解を深める。
-----------	--

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形態	概要
1	2023/7/24	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	鮮度保持試験 (処理区の設置)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	間引きによる出荷規格調整 (収穫)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
2	2023/7/25	火	09:45-12:15	間引きによる出荷規格調整 (調整)	実習	ニンジンの株間の違いによる出荷規格と卸売値への影響を学ぶ
			13:30-16:00	カボチャ出荷実習	実習	収穫したカボチャの市場出荷に向けて、選果、箱詰めなどを行う
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り (受講者から所感、質疑含め)
3	2023/7/31	月	09:45-12:15	鮮度保持試験 (データ収集)	実習	温度、湿度など収穫後の貯蔵条件がトマト果実の鮮度保持に与える影響を学ぶ
			13:30-16:00	メロン品種比較試験 (収穫調査)	実習	品種比較試験のメロンを収穫する
4	2023/8/1	火	09:45-12:15	メロン品種比較試験 (果実調査)	実習	品種特性を理解するため、果実の形態について測定する
			13:30-16:00	メロン品種比較試験 (食味試験)	実習	品種特性を理解するため、消費者の視点で果実食味を評価する
			16:00-16:30	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表する。
5	8月29日、9月14日または9月26日のいずれか	※	同上	実験結果報告会等	報告会	研修成果の発表会 (8/29 (火) 共通実験報告会、9/14 (木) 個別課題報告会、または9/26 (火) インタリムレポート検討会)

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> 上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性があります。 圃場での実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴 (作業着及び長靴等) を準備してください。 開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

<ul style="list-style-type: none"> アフリカ・アジアからの研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムにしたいと思えます。 コミュニケーション手段は英語です。臆せず積極的にご参加ください。 各研修員が取り組んでいる個別実験について、興味ある分野・国があれば、積極的に聞き取りを行うなど交流を図って下さい。

5. その他

上記4日間の他に、8月29日 (火) に開催する「共通実験に係わるポスター発表会」、9月14日 (木) の「個別課題レポート発表会」、または9月26日 (火) の「インタリムレポート検討会」のいずれか1日に参加できることが望ましい。
--

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	稲作技術向上 (普及員) コース
2) 担当者名 :	武田 翔吾 (研修コース委託先業務総括 : 原田氏)
3) 期間 (日数) :	9月4日 (月) ~ 9月8日 (金) 5日間
4) 定員 :	受入人数 2人程度
5) 言語 :	英語 (実施内容を英語実施のため理解できること) ※目安 (TOEIC600点程度)
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学 (但し、農業に係るフィールドを基礎) 関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	エチオピア、ガーナ、リベリア、シエラレオネ、東ティモール、ウガンダ、ザンビア

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術 (特に収量調査) を理解するとともに、研修員との交流を通じて異文化を理解する。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2023/9/4	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	収量調査法	
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
2	2023/9/5	火	09:30-12:15	収穫 (実験)	・ 共通実験・実習では、坪刈り、五斜線法による収量調査を行い、その後バインダーやコンバインによる収穫作業を実習する。
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
3	2023/9/6	水	09:30-12:15	収穫 (実験)	
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
			16:15-16:45	中間レビュー	
4	2023/9/7	木	09:30-12:15	収量調査 (実験)	
			13:30-16:00	収量調査 (実験)	
5	2023/9/8	金	09:30-12:15	米の等級検査視察 稲作農家訪問 つくばみらい市における行政と農家の連携	
			13:30-16:00	圃場観察 (JICA筑波)	
			16:00-16:30	プログラム振り返り	プログラムでの学び等を発表

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。 ・ JICA筑波の圃場における作業を行いますので、作業着、雨除けのレインコート等を持参してください。 ・ 長靴は、24.0, 26.5, 27.0, 28.0, 29.0cm貸出可能です。このサイズ以外の場合は持参ください。 ・ 開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
--

5. その他

・ 一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。
--

2023年度 JICA筑波 大学生・大学院生向け国際協力理解講座(案)
プログラムNo. 4 : 稲作技術向上 (普及員) プログラム概要票

別紙①-5

1. 基本情報 *講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	稲作技術向上 (普及員) (B) コース
2) 担当者名 :	片野 健太郎 (研修コース委託先業務総括 : 丸山氏)
3) 期間 (日数) :	9月4日 (月) ~ 9月8日 (金) 5日間
4) 定員 :	受入人数 2人程度
5) 言語 :	実施内容をフランス語で理解できること ※目安 : DELF A2、仏検3級程度
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学 (但し、農業に係るフィールドを基礎) 関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	ベナン、ブルンジ、ギニア、コンゴ民主主義共和国、コンゴ共和国

2. コンテンツ

本プログラムの目的	実験・実習を通して稲作技術 (特に収量調査) を理解するとともに、研修員との交流を通じて異文化を理解する。
-----------	---

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	概要
1	2023/9/4	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション	関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	収量調査法	
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
2	2023/9/5	火	09:30-12:15	収穫 (実験)	・ 共通実験・実習では、坪刈り、五斜線法による収量調査を行い、その後バインダーやコンバインによる収穫作業を実習する。
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
3	2023/9/6	水	09:30-12:15	収穫 (実験)	
			13:30-16:00	収穫 (実験)	
			16:15-16:45	中間レビュー	
4	2023/9/7	木	09:30-12:15	収量調査 (実験)	
			13:30-16:00	収量調査 (実験)	
5	2023/9/8	金	09:30-12:15	米の等級検査視察 稲作農家訪問 つくばみらい市における行政と農家の連携	
			13:30-16:00	圃場観察 (JICA筑波)	
			16:00-16:30	プログラム振り返り	プログラムでの学び等を発表

3. 留意事項

<ul style="list-style-type: none">・ 上記日程表は現時点での案であり、稲の生育状況、天候等の都合により変更の可能性があります。・ 圃場における作業を行いますので、作業着、雨除けのレインコート等を持参してください。・ 長靴は、24.0, 26.5, 27.0, 28.0, 29.0cm貸出可能です。このサイズ以外の場合は持参ください。・ 開始時間には時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。
--

4. 学生さんへ一言

国内での国際協力現場を体験できます。研修実施関係者や研修員と積極的に関わることで、稲作技術以外にも、多くのことを学べる実りあるプログラムとなります。フランス語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。

5. その他

<ul style="list-style-type: none">・ 一定の自然科学的知識を有している学生を対象として想定しているため、文科系の方には分かりにくい部分があることをあらかじめ了承の上ご参加下さい。
--

プログラムNo. 5 : 「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コース プログラム概要票

1. 基本情報

*講師や諸般の都合により、プログラム内容が変更になることもあります。予めご了承願います。

1) 研修コース名 :	天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術コース
2) 担当者名 :	須田 真依子 (研修コース委託先業務総括 : 浦山氏)
3) 期間(日数) :	8月28日(月)~9月1日(金)5日間
4) 定員 :	受入人数4人程度
5) 言語 :	英語(実施内容を英語で理解できること) (※目安 TOEIC 600点程度)
6) 主な対象学生 :	生物学系、農学系、開発学(但し、農業に係るフィールドを基礎)関係の学部3年生以上及び大学院生が望ましい。
7) 研修員の出身国 :	アンゴラ、ガーナ、リベリア、ナイジェリア、セネガル、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダ、ザンビア、エチオピア、ギニア

2. コンテンツ

本プログラムの目的	アフリカのネリカ稲(NERICA)を含む天水型稲の栽培、種子生産、品種選定について学び、コメ生産を通じてアジア・アフリカ地域の貧困問題、食糧の安定供給について考えます。
-----------	--

日程表

No	日付	曜日	時間	テーマ	形式	概要
1	2023/8/28	月	09:15-09:30	プログラムオリエンテーション		関係者紹介、プログラム説明、諸連絡等
			09:30-12:15	品種比較実験の出穂期調査	実習	稲10品種の出穂期における特性調査
			13:30-16:00	稲の出穂期調査	実習	個別実験の出穂期における調査
2	2023/8/29	火	09:30-12:15	ネリカ改良品種の調査	実習	JICA筑波で育成中の改良品種の調査
			13:30-16:00	アフリカの稲作	講義	ネリカを中心としたアフリカ稲の特性と生産の現況
3	2023/8/30	水	09:30-12:15	籾の形状と稔実の生理	講義	籾の稔実発達形態と生理特性
			13:30-16:00	籾の形状と稔実の生理	講義	籾の稔実発達形態と生理特性
			16:15-16:45	中間レビュー		中間時プログラムの振り返り(受講者から所感、質疑含め)。
4	2023/8/31	木	09:30-12:15	稲の収量と収量構成要素 1	講義	稲の収量調査方法と収量構成要素について
			13:30-16:00	原原種種子抜き取り調査	実習	純系系統種子、原原種種子圃場での異株の抜き取り調査
5	2023/9/1	金	09:30-12:15	稲の収量と収量構成要素 2	講義	稲の収量と収量構成要素はいつ、どのように決まるか
			13:30-16:00	収量調査	実習	収量調査の実際
			16:00-16:30	プログラムの振り返り		国際協力理解講座のプログラムを体験した結果を発表

3. 留意事項

- ・上記日程表は現時点での案であり、今後変更の可能性がります。
- ・実験・実習がありますので、身軽で汚れても良い服装と靴を準備してください。
- ・開始時間には、時間厳守で集合してください。終了時間は、作業の関係で遅れることがあります。

4. 学生さんへ一言

- ・諸国を代表する研修員とのコミュニケーションを積極的に取っていただき、楽しく実りあるプログラムであると同時に、途上国の技術者等への指導業務について、知っていただく機会にしたいと思います。
- ・英語でのコミュニケーションになりますが、積極的な参加をお願いします。
- ・自然科学系の内容ですが、食糧生産に関心の高い社会学系の方の応募も受け付けます。

5. その他

- ・参加者には、事前に研修員各国の概要(インセプションレポートなど)に目を通していただければと思います。各国の現状(気候条件や畑作物の作付状況等)や研修員が抱える課題を理解し、関心をもった内容について、講座中はぜひ研修員と積極的に意見交換をしてみてください。全ての国ではなく、1~2か国に絞ってでも構いません。
- ・実験・実習は畑地が主ですが、小規模な水田での作業も若干あります。